

アナログ再生とデジタル再生の比較表

勿論、単純な比較は出来ないと思います。

まして、点数を出してどうするの？ということですが、やはり「やってみたい」わけです。アナログ・デジタルどちらの肩を持つわけでもなくやってみて、やはり CD フォーマットの優位性を再確認しました。

ただし、例えば、評価項目の「再生装置の調整手間」ですが、CD の場合は「手間要らず」で「○」、レコードは「手間要る」で「×」です。これは、別の見方では「CD は調整出来ない」「レコードは調整可能」ということになります。

今回の評価は「容易さ (安易さ?)」を評価軸としましたので、このような点数になった次第です。

もし、調整によって音が変化することを「良し」とするならば、当然点数は変化します。

メディアの種類 評価項目	アナログ再生		デジタル再生	
	レコード	テープ	CD	H.B / H.S.
メディア再生の原理的欠陥	トラッキングエラー	ヒスノイズ	量子化フォーマットの限界	同左
再生装置はシンプルか?	×	×~△	○	×
再生装置の調整手間	×	○	○	△
再生の手間	△	△~○	○	△
ソフト入手の容易さ	△	×	◎	×
ソフト資産	◎	×	○	×
ソフト・スペースファクター	×	×~○	○	○
パッケージの楽しさ	◎	×~△	○	×
評価 (容易さを好しとして) × : 0 △ : 1 ○ : 2 ◎ : 3	8	3 ~ 8	1 5	4
その他	1 レコードは回る、テープも回る、CD も回るが高速過ぎる。 2 レコードの溝は見える。テープの記録は見えない。CD のドットも見えない。デジタルデータはもちろん見えない。			

注 : 「H.B. / H.S.」 : High Bit / High Sampling